



アルバ新聞 11 月号 ～希望の夜明け～

No.66 2025/11

*アルバ新聞は利用者が作成しています。

急激に寒くなってきましたね。皆さまどうか風邪など召されぬよう、お気を付けください。(K・S)

小さい秋

普段あまり意識することのない小さい秋らしさを調べてみました。



気候

秋になり乾燥した空気になると赤や緑などの波長の長い光を散乱させる水蒸気が少なくなり青や紫などの短い波長の光が強く散乱され濃い色の青空がみられるようになります。

鳴き声

日本では昔から虫や鳥の鳴き声を聞いて季節の移り変わりを感じてきました。

例えば七十二候では立秋の次候のひぐらしなく寒蟬鳴や、白露の次候のせせりなく鶺鴒鳴など秋の訪れを知らせるものとして挙げられています。



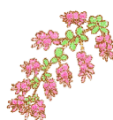
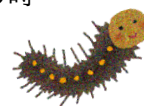
七草

七草粥で有名な春の七草だけでなく、秋にも七草があります。山上憶良の和歌が由来とされ、ハギ、ススキ、クズ、ナデシコ、オミナエシ、フジバカマ、キキョウなど秋に旬を迎える植物たちが選ばれています。

毛虫

チャドクガやイラガなどの毛虫が大量発生することがあるので木の下を通る時は長袖の服を着用やつば付きの帽子をかぶるなど気を付けてください。

(O・M)





マチカネワニについて

豊中市公式キャラクター「マチカネくん」で知られるマチカネワニについて紹介します。

マチカネワニは、今から 40 万～50 万年前の更新世中期の中頃に日本列島に生息していました。現生のマレーガビアル(トミストマ類)の近縁種とされています。

マチカネワニ化石は、1964 年に大阪大学豊中キャンパス(待兼山町)の理学部校舎建設現場の大阪層群と呼ばれる地層の粘土層(約 45 万年前)から発掘された、日本で初めて発見されたワニ化石です。発見現場の地名からマチカネワニと名付けられました。古事記に登場するワニの化身であるという豊玉姫にちなんで、「トヨタマヒメイア・マチカネンシス」の学名が付けられています。

マチカネワニは頭骨だけで 1 m を越え、体長 6.9～7.7m、体重は推定 1.3 t とワニ類の中でも大型です。これほど巨大なワニの化石がほぼ完全な形で見つかったのは全国でも例がなく、ワニの生態を明らかにするうえで、とても貴重な資料となっています。

化石は下あごの先が欠けており、右足のふくらはぎの部分(脛骨と腓骨)が折れています。また、背中の皮の下にある鱗板骨には噛まれたことによる直径 2～3 cm の穴が 2 つ開いています。これらは他のワニとの格闘によるもので、折れた下あごの欠損のあとには治癒した痕跡が確認されていて、生きている間に下あごがなくなったと考えられています。戦ったあとがあるため、この化石のマチカネワニは雄だといわれています。

上あごの大きな歯が特徴で、歯がより後方に位置しています。こういった特徴はマチカネワニにみられます。吻部が長く、主に魚を食べていたと推測されています。

主に熱帯や亜熱帯地域で生息する現在のワニと違い、生息当時は温帯性気候で、浅瀬にいたと考えられています。どのようにして温暖な気候で巨大化したのかはまだわかりません。

マチカネワニ化石は、2014 年 10 月 6 日に国の登録記念物になりました。そして、2025 年 9 月 18 日付けの官報において、国の天然記念物に指定されました。大阪府下での指定は 69 年ぶり、豊中市では初となります。



空想上の生物である竜のモデルという説もあるマチカネワニ。発見されたマチカネワニの実物化石は、大阪大学総合芸術博物館で見学することができます。

(K・T)

